

対話の相手の「本音」を知ろう —投資家フォーラムでの議論などから読み取る試み—

大堀 龍介 CMA

目 次

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. はじめに | 4. 継続的な対話の意義についての私論 |
| 2. 投資家フォーラムでの討議・意見交換から | 5. 終わりに |
| 3. 対話の相手の「本音」を知るために | |

投資家と企業間の対話を良質で効率的なものにし、相互理解を促進するためには、双方が対話の相手の「本音」をよく知ることが望ましい。投資家フォーラムにおける議論の様子に接することで、様々な論点に関する投資家・企業それぞれの「本音」を読み取ることができる。また、一部の刊行物や書籍・資料にも、対話の当事者の「本音」を知る手がかりを見いだすことができる。

1. はじめに

2015年に活動を開始した投資家フォーラムでは、個人として参加する会員が自由に発言し他の会員と討議する場である「投資家フォーラム会合」（以下、会合）に加え、機関投資家と企業との意見交換を目的とした「オープンセッション」（以下、OS）を開催している（注1）。同団体は、会員である投資家の、所属機関の公式見解とは別の「肉声」を、なるべくそのまま（無理に意見集約もせずに）記録し他の投資家や企業側の人々の参考に資する

べく発信することに努めるとともに、企業の率直な意見を受け止めることにも力を注いできた。先般、いつもとは少しスタイルを変え、投資家だけの会合、IR担当者を中心とした企業側の人々だけの会合、更に投資家の代表と企業側の人々が意見交換するOSを組み合わせた、「IR活動～ここが変だよIR、ここが変だよ投資家～」というテーマを掲げた企画を実施したところ、対話の相手が何を考えているのかについて、依然として双方に認識ギャップが残っていることがあぶり出されてきた。



大堀 龍介（おおほり りゅうすけ）

投資家フォーラム運営委員、一般社団法人機関投資家協働対話フォーラム理事。1987年東京大学経済学部卒業。同年野村證券(株)入社。以後、(株)野村総合研究所への出向を含めセルサイド・アナリスト業務に従事。96年JPモルガンの資産運用部門にバイサイド・アナリストとして入社。調査部長を経て2009年JPM運用本部（のちRDP運用本部）本部長兼CIOに就任。17年JPモルガンを退社。経済産業省『持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築～（伊藤レポート）』委員。